

## 定着不良のネガフィルム

千葉県内の調査機関提供  
撮影：1985（昭和60）年  
原板サイズ：6×7  
現像処理：外注委託



現像処理後9年経過して、ネガフィルムの一部のコマの小さな黄変部分に気付く。その後、3年経過後の観察では全部のコマに明瞭で大きな面積の黄変部分が現れた。この明瞭な残留ハロゲン化銀の反応は、このネガフィルムが極端な定着不足で、数年でネガフィルムの画像のほとんどが消失していくことを示している。

定着不足となった原因は特定できないが、定着時間が短い、定着薬品の疲労による可能性が高い。また定着処理中に攪拌が不足すると、部分的に定着不足となることもある。当然これらの要因が重複した処理をすると顕著な定着不足を招く。

ちなみに左側の円形の茶褐色は、2005年秋に行った残留ハロゲン化銀の滴下テストで反応した部分。